

定期的には場巡回を行い生育を把握し適期管理に努めましょう。

生育ステージ、水管理、主な作業内容の図表。生育ステージは育苗準備、育苗期、活着期、有効分げつ期、無効分げつ期、穂の発育期、登熟期。水管理は稲の生育、田植え、最高分げつ期、出穂期、成熟期。主な作業内容は種籾準備、育苗期間、播種、堆肥等散布、土壌改良剤施用、基肥施用・耕起、育苗箱防除、田植え、除草剤散布、間断かん水、中干し、穂肥、病害虫防除I、II、III、落水。

病害虫防除(基本)の薬剤表。5月、6月、7月、8月、9月、10月の各旬ごとの薬剤名、濃度、散布量を示す。例: 5月下旬 種子消毒(テクリードCフロアブル2000倍)。

土づくり

資材名、施用量(kg/10a)、備考の表。ミネラルG、とれ太郎、けい酸加里、アヅミン、土力の素。

施肥基準

成分(N-P-K)、施用量の表。一発肥料の場合、基肥、穂肥①、穂肥②、追肥一発の場合。

※追肥一発の場合、穂肥①の時期に全量施用する。
※麦ワラすき込みの場合(麦の収量400kgとして)は基肥を10kg増肥する。
※前年大豆作の場合は基肥を2割減肥する。
※一発肥料について: ①地力により施肥量を加減する。
②葉色が薄く推移するが、肥効が持続するので追肥はしない。
③なるべく田植に近い時期に施用する。

令和3年産ヒヨクモチ栽培管理記入欄

品種名、作付面積、5月、6月、7月、8月、9月、10月の栽培管理記入欄。ヒヨクモチの生育管理記録表。

除草剤防除基準

除草剤防除基準、イグサ近隣田では使用しない。
◎初・中期除草剤
剤型、薬剤名、使用時期、10a当たり散布量、使用上の注意点を示す表。

除草剤使用上の注意事項
●使用基準を厳守し、適正な使用に努め、降雨直前、直後の処理は避ける。
●散布時に田面を露出させないよう注意する。また、藻やワラズなどの浮遊物がある状態では効果が落ちるので取り除く。
●散布後は、3~5cmのたん水状態を保ち、7日間は、水を落とさない。
●葉害のおそれがあるので、漏水田での使用や散布直後の補植、極端な深植や浅植、軟弱苗の使用はさける。
●移植同時施用は、葉害が出やすいので、散布後できるだけ早く入水し、オーバーフローが起こらないように止水する。(除草効果、葉害軽減のため)土の戻りが悪いところでは使用しない。

◎中・後期除草剤

雑草の種類、使用する農薬、使用量(10a当たり)、使用時期、収穫前日数を示す表。

※初・中期除草剤および中・後期除草剤の使用はそれぞれ1回までとする。

ヒヨクモチの特徴

出穂期、成熟期、稈長、収量、耐倒伏性、いもち耐病性を示す表。

★農薬は保管庫等に入れるなどして、きちんと管理しましょう!
★生産履歴記帳により安全・安心で品質の良い米を消費者に届けよう!!

●農家自ら進めよう。米の消費拡大!
●農薬購入の際は印鑑が必要です。
●稲ワラ・麦ワラは流出防止や土づくりのため、堆肥と交換するか全量すき込みましょう!